

日程	平成29年10月17日(火)	
視察先・視察内容	静岡県浜松市	総合水泳場ToBiOについて

目的 本市には南公園の子ども向けプールとげんき館内のフィットネスプールのみで、競技用プールがなく、今後の計画策定に要望・提言をすべく、施設の視察を行った。

概要 西部清掃工場とともにPFI事業として建設。老朽化した江之島水泳場隣接の市営屋内プールの後継施設である。浜松市出身の古橋廣之進氏を祈念して命名され、古橋氏の展示コーナーも設置。(古橋廣之進記念浜松市総合水泳場:愛称ToBiO)



施設概要



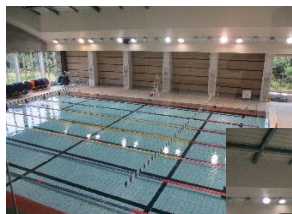
メインプール(国際公認50m10コース)

- ・プールの床が可動式で0m-3mの推進調整が可能。
- ・横幅が25mであるので25mプールとして2つに分けられる。
- ・収容観客席は2300人で、有名選手等が来た場合には席が全く足りなくなる。



飛び込みプール(国際公認)

- ・飛び込みだけでなく、水球やシンクロスイミングなどの練習場として利用されている。可動床は0m-5mで、平日昼は1.1m水深に設定され、ウォーキング等利用時間制限無しで一般利用が可能。
- ・飛び込み台の横にトランポリンなど飛び込み練習用具も充実している。



サブプール(国内公認25m8コース)

- ・メインプールでの大会のアップ専用プールとしても使用。サブプール単独で地域の大会等も開催。



屋内レジャープール

- ・ジャグジープール・ウォーキングプール・滑り台等。リラクゼーションと健康増進を目的としている。

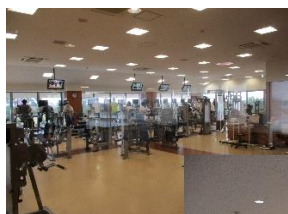


屋外レジャープール(夏期のみ)

- ・複合遊具

屋外児童プール

(夏期のみ 無料)



ジム・スタジオ

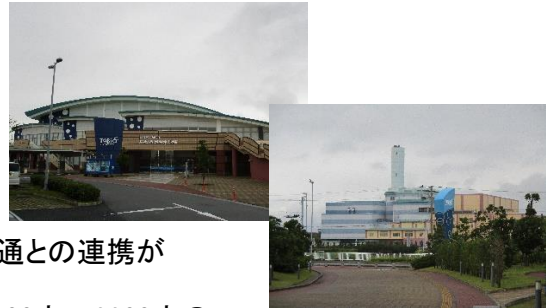
- ・利用料金は750円。65歳以上・高校生以下は370円。障がい者無料。浜松市の条例改正により28年4月より現利用料金割引制度が導入された。
- ・更衣室に大浴場・露天風呂・ドライサウナ整備。
- ・スタジオでは週30以上のレッスンがあり、平日の真っ昼間であったが、30名を超えるスタジオレッスン参加者、ジムも20名以上の利用者が汗を流していた。
- ・プールではスイミング教室以外でもアクアビクス等の民間スポーツクラブ同様のレッスンが可能。(日本水泳振興会・セントラルスポーツ・東海美装)



視察内容 ・自主事業としてグッズ販売・スイミング教室・利用料収入で黒字化している。値引き金額は浜松市が補正予算にて補填している。
 ・年間総利用者数33万人を超え、うち20万人が一般利用でその他が大会等の参加者や学校の部活動等の利用になっている。9年間利用者は順調に増え続けている。
 ・電気・温熱のための蒸気は清掃工場から発生するものを利用するため負担無し。水道代のみ運営会社の負担となる。(電気代・ガス代はなし)
 ・館内バリアフリーを実践。車椅子でのシャワー室利用も可能。また障がい者付き添い1名は無料利用で、障がい者の利用が飛躍的に伸びている。

課題

・施設としては日本選手権までの大会は運営可能だが、観客席の少なさ(ToBiO最大3000人・代々木などは500人~10000人規模の水泳場が存在する)のため、大会規模の制限がある。また利用者の90%が自動車での来場で県大会で駐車場が足りなくなる。最寄りの高塚駅から徒歩30分、浜松駅からバスで40分かかることから、公共交通との連携が課題になっている。
 大会等の開催がなくても、夏期営業には通常1000人~2200人の利用者が訪れ、駐車場不足と公共交通連携が最も大きな課題となっている。(現駐車場は臨時も含め400台)



所感

岡崎市から遠征し、大会等利用する人も多いToBiOは岡崎市の目指すプール整備計画の一つの先進事例として参考にすべきと考える。
 岡崎市は名門スイミングクラブの存在や学校体育教育における水泳指導の恩恵で、水泳に関する意識が他市と比較して強いと感じる。
 陸上競技と同じく水泳競技も順位だけでなく、タイムも重要となる競技であるがため、公認記録と認定される施設の必要性は大きい。施設用地やToBiOでの課題である駐車場確保や公共交通との連携、また電気代等のコスト面での問題も多い。
 市民の意見、水泳連盟、学校関係とのヒアリングを重ね、岡崎市に必要で運営持続可能なスポーツ施設計画として提案を続けていきたい。



公認競泳プールには、①国際基準プール②国内一般プール・AA③国内一般プール・A④標準プールの施設種別に分けられる。今後岡崎市のスポーツを通じたまちづくりの方向性と市民ニーズを踏まえ、計画を策定することを望む。またレジャープールを併設すべきか否か、電気代・ガス代等のエネルギーをどのようにするか等、いくつかの先進事例を研究し、様々なプールの施設運営を視察し検討すべきである。

個人的な見解ではあるが、岡崎市には競技水泳経験者が多く、昭和40年以降に生まれた世代は特に盛んに、個人差はあるが、学校やクラブで水泳競技を経験している。現在、マラソン愛好家人口が増えているように、今後は健康促進のための水泳愛好家が増えていく下地が岡崎市には充分あると認識している。
 手軽にできるスポーツとして、また個人の目標を立て記録に挑戦し、目に見える目的を持てるスポーツとして、水泳は存在していると考えます。
 そうした岡崎市のスポーツに対する背景を考慮に入れて今後どのようなプールをつくるべか、市民の声を聞いていきたい。
 市民大会や市民記録会など市民が気軽に参加できる大会が可能なプールを望み、現岡崎マラソンのように広く愛されるスポーツイベントを検討していきたい。
 ケガの可能性の一番少ないスポーツと言われる水泳が「スポーツでまちづくり」の重要な役割を果たしていく。早急に本市のプール建設計画について検討される事を強く要望する。



日本水泳の歴史資料室